優勝した女子陸上選手が喜びのあまりユニフォーム脱いでおっぱい丸出して走り回る！

優勝の瞬間、佐倉葵の胸の奥で何かが決壊した。

大学対抗陸上競技大会の女子100m決勝。競技場のスタジアムは、夕暮れのオレンジ色の光にと熱狂に包まれていた。9レーンの明桜大学のエース、佐倉葵は、スタートラインで深く息を吐いた。4年間の苦しい練習、怪我との

戦い、挫折と再起。すべてがこの一瞬に凝縮されていた。

「絶対に勝つ……」

ピストルの音が響いた瞬間、彼女はロケットスタートを決め飛び出した。風を切り裂くような疾走。左を走る強豪大学の選手たちを、次々と引き離していく。ラスト20メートルで完全に独走態勢に入り、胸を突き出してゴールした。タイムは11秒13。日本学生記録での優勝だ。

「やったあああああ！！」

葵は両手を高く掲げ、雄叫びを上げた。スタンドから割れんばかりの拍手と歓声が降り注ぐ。チームメイトたちがトラックに雪崩れ込み、彼女を抱きしめ

ようとする。汗でびっしょりになったユニフォームが体に張り付いていた。

そのとき、葵の中で長年抑え込んできた感情が、堰を切ったように溢れ出した。

嬉しすぎて、嬉しすぎて、たまらなかった。頭が真っ白で、何も考えられなくなった。

彼女は突然、自分のユニフォームの裾を両手で掴んだ。一気に頭から勢いよく引き抜く。白い肌が夕陽と照明に照らされ、豊かに実った胸が露わになった。スタジアム全体が、一瞬にして凍りついた。